

自然エネルギー 100%を目指す 「持続可能まちづくり」。電気・熱・交通での 省エネ/シェア/創エネ

活動地域  長野県

ひろげる助成

3年目

実践

上田対話会議への
通算出席者 **670人**

学生らとの断熱改修
ワークショップ **10か所**

今年度計画の達成度 **90%**

全体計画の達成度 **90%**



知事、市長、交通事業者が勢揃いした会議

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

公共交通の充実により移動からの温室効果ガス排出を減らしたり、公共施設の断熱化によって冷暖房使用を減らす取組みは、関係者も多く、時間がかかる。

■ 工夫した点

脱炭素への取組みを地域全体に広げるための基礎づくりと考え、時間と手間がかかっても、自治体や事業者、地域住民との連携を広げ、協働事業を一つひとつ実現していった。

課題

持続可能なまちづくりは重要だが、①既存社会インフラが化石燃料多消費を前提、②個別利害と全体最適な取組みがずれる、③短期的にはコスト高、で進みにくい。

目標

2050年までに2013年度比実質100%の温室効果ガスの排出削減を目指す活動計画が上田地域全域で実行され、「自然エネルギー 100%地域」に近づいている。

活動内容と成果

- 2050年実質ゼロ、2030年57%削減の上田市計画ができた
- 地域の現状を正確なデータで把握してから、地域の持続可能性について対話で語り合う上田リバース会議（逆転と再生を目指す）を上田市との共催で、合計16回行った。要点をまとめた冊子を市役所や図書館等各所で配布した。長野県知事、市長、市内の四交通事業者が勢揃いをした会では、公共交通が脱炭素と地域活性化双方に役立つことが強調された
- 高校生等学生や地域の工務店と一緒に学校や公共施設等合計10か所の断熱改修ワークショップを行った



上田染谷丘高校生と温暖化対策WS

全助成期間の活動を振り返って

個々の事業者や課の中だけで最適と考えたまちづくりを進めてきた結果、スプロール化が進み移動エネルギーが非常に多い。建築物は戸建や断熱不足のものが多く、エネルギーの共同利用や冷暖房の節約ができない。断熱ワークショップをした劇場で、地域の持続可能性の危機をデータで把握する上田リバース会議を上田市と共催で継続することで、全体最適とビジョンの共有、小さな成功の積み重ねが重要であることを地域に印象づけた。



冊子「上田リバース」は大きな話題に

〒386-0018
長野県上田市常田2-27-17
電話：0268-75-5896
E-mail：info@neco.or.jp
HP：https://www.neco.or.jp



今後の 展望

市民との対話や協働の場の設定等様々な形で行政と連携して「サステナブルシティ」「ゼロカーボンシティ」を実現していく。また、行政や市民に加え、企業の取組みとも連携できるような仕掛けを進めていきたい。通勤をなるべく公共交通を使って行う方法を一緒に考えたり、省エネ機器への更新や太陽光発電を中心とした再エネ導入、廃棄物の再利用ネットワークの構築等を計画的に進めたり、提案を行っていく。